



STAR'S REPORT

2011年2月期 中間報告書

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

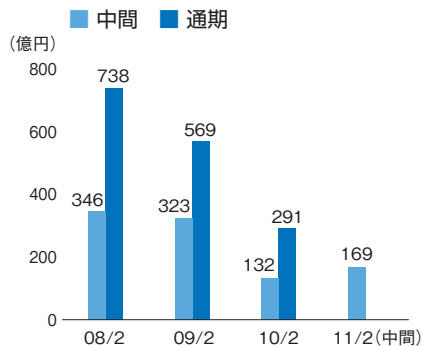
ここに2011年2月期中間期(2010年3月1日から2010年8月31日まで)の事業の概況についてご報告申し上げます。



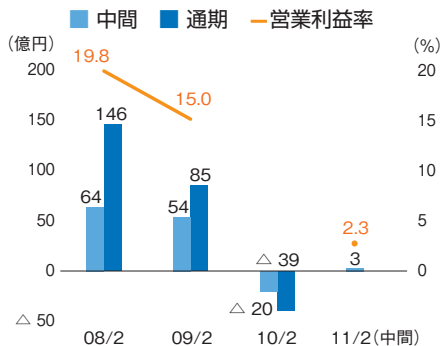
2010年11月
取締役社長

佐藤 肇

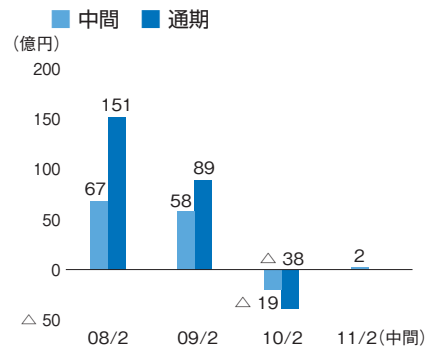
売上高



営業利益／営業利益率



経常利益



※2010年2月期は営業損失のため営業利益率を算出しておりません。

当中間期の業績について

当中間期の経済情勢は、米国経済は回復が続いているもののスピードは鈍化し、欧州経済もユーロ加盟国の財政危機への懸念から回復のペースは低調に推移しました。一方、アジア経済は中国を中心に引き続き高い成長率となり、わが国経済も為替相場の円高傾向が続いたものの緩やかな回復が続きました。

このようななか、当中間期の連結売上高は前年同期比27.6%増の169億6千7百万円となりました。利益につきましては、売上の回復に加え、固定費などの削減効果もあり、営業利益は3億8千9百万円、経常利益は2億2千2百万円となりましたが、中間純損益は特別退職金の発生などにより10億8千2百万円の損失となりました。

事業の状況について

特機事業の小型プリンタは、POS市場において、サーマル製品の売上が南米・北米市場で増加したほか、中国

市場においてもドットインパクト製品の需要増加などにより、売上が増加しました。

コンポーネント事業では、事業の軸足を携帯電話向けから車載市場などに移しているため、携帯電話向けの売上は大幅に減少したものの、車載市場関連では市況の回復に伴い、電子ブザーやスピーカーの売上が米国などを中心に増加しました。

工作機械事業は、中国をはじめとするアジア市場における自動車、自動二輪関連先などの設備投資が増加し、受注増加が続いています。そのため、生産能力の引き上げに取り組み、売上の増加に努めました。

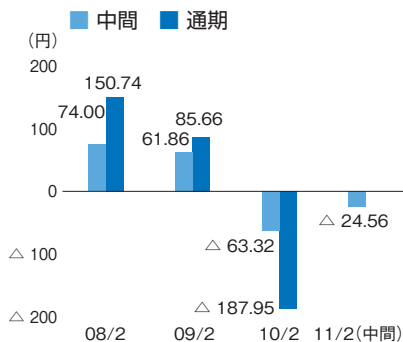
精密部品事業では、腕時計メーカーの生産調整が終了したことや自動車市場やパソコン市場の需要回復などにより、売上は増加しました。

通期の見通しについて

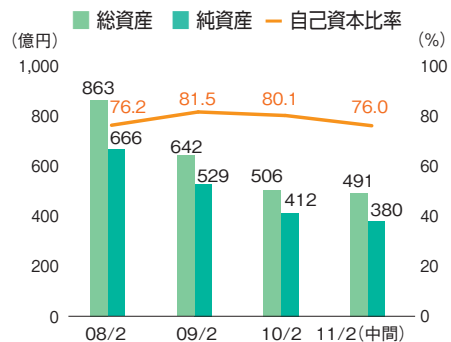
中国などの新興国経済は成長が見込まれるものの、日本および欧米諸国は回復の足取りが鈍く、先行き不透明

連結業績ハイライト

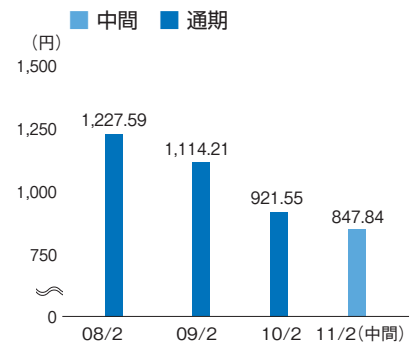
1株当たり純利益



総資産／純資産／自己資本比率



1株当たり純資産



な状況が続くと予想しています。

このような状況のなか、引き続き営業体制の強化、固定費の削減などに取り組み、収益性を重視した事業体質を構築してまいります。

各事業の見通しですが、特機事業については、環境に配慮したサーマルエコプリンタや米国市場向けにモバイルプリンタなどの新製品を投入するとともに、今後の成長が見込まれる中国、東南アジア、南米などの地域で新規顧客の開拓を進めることで、売上・利益ともに増加を見込んでいます。

コンポーネント事業については、収益性の低下した携帯電話向けから車載市場などに軸足を移し事業の再構築を進めており、売上は大幅な減少となりますが営業損失は縮小する見込みです。

工作機械事業については、底這い状態が続いていた受注が欧州市場においても回復してきたことから、売上・利益ともに大幅な増加を見込んでいます。

精密部品事業については、腕時計部品市場の縮小傾向

が続くものの、自動車向け部品や小型ハードディスク駆動装置(HDD)部品の受注増加を受けて、売上・利益ともに増加を見込んでいます。

以上により通期の連結業績については、売上高は前期比21.7%増の355億円となり、利益については営業利益9億円、経常利益8億円、当期純損失8億円となる見通しです。

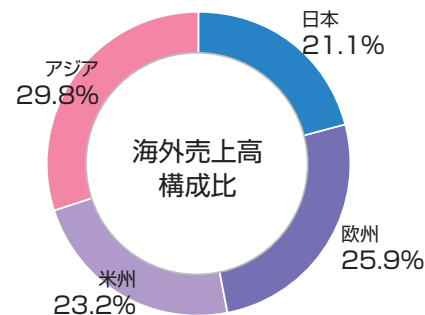
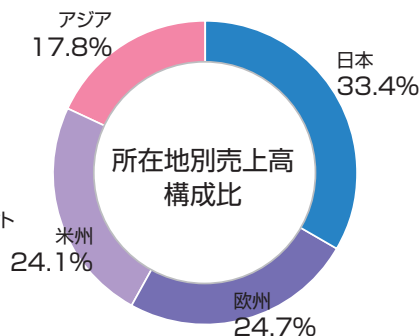
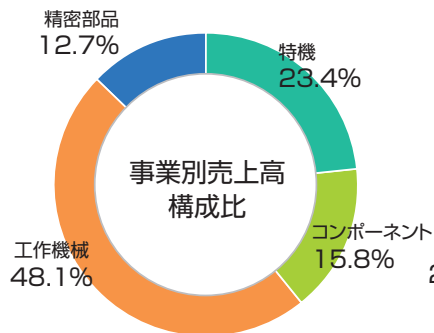
株主の皆様へ

当期の中間配当につきましては、前期の中間配当と同じく1株当たり11円とさせていただきます。また、期末配当につきましても前期末と同じく1株当たり11円(中間配当とあわせて年間22円)を予定しております。

引き続き業績回復を目指してグループの全総力をあげて努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

セグメント情報



特機事業

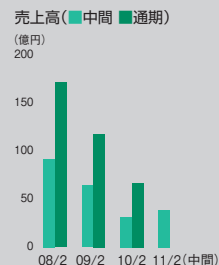


小型プリンタ TSP100

小型プリンタは、堅調に推移している南米市場に加え北米市場でも需要回復の兆しがみられ、サーマル製品の売上がPOS市場向けを中心に増加しました。また、内需拡大策を継続している中国市場では、ドットインパクト製品の売上がPOS市場向けの需要増加などにより増加しました。一方、景気回復が遅れている欧州市場は全体的に低調で、売上は前年同期並みにとどまりました。

以上の結果、当事業の売上高は39億7千5百万円(前年同期比25.6%増)となり、営業利益は4億2千5百万円(前年同期比292.7%増)と改善しました。

なお、環境に配慮したサーマルエコプリンタや米国市場向けにモバイルプリンタなどの新製品の販売を開始しました。



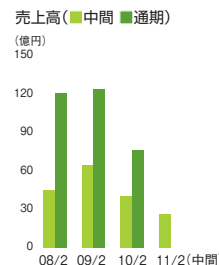
コンポーネント事業



スピーカー SAC-30A

当事業では、当期より事業の軸足を採算性の厳しい携帯電話向けから車載市場などに移しており、携帯電話向けの売上は大幅に減少しました。一方、車載市場関連では市況の回復に伴い、電子ブザーやスピーカーの売上が米国などを中心に増加しました。生産面では、携帯電話向けの売上減少に対応して、海外工場の人員削減などを行い体質の改善に努めました。

以上の結果、当事業の売上高は26億8千5百万円(前年同期比33.2%減)と大幅に減少し、営業損失2億5千万円(前年同期は6億3千5百万円の損失)となりました。



工作機械事業

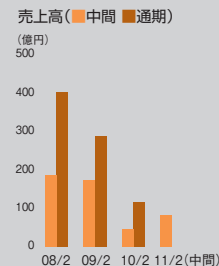


SR-20R III

CNC自動旋盤では、世界経済の回復に伴い、市況は長らく続いていた底這い状態から回復してきました。地域別では、中国をはじめとしたアジア市場においては自動車、自動二輪関連などの設備投資が増加し、昨年後半から前年同期を上回る受注を続けています。米国市場においては、医療関連への営業活動に注力し、受注実績は堅調に推移しています。また、最も厳しい状況が続いていた欧州市場も当期に入り、受注環境が改善してきました。製品別では、SRシリーズやコストパフォーマンスに優れたSBシリーズを中心に売上が増加しました。

以上の結果、当事業の売上高は81億5千7百万円(前年同期比74.1%増)と大幅に増加し、営業利益は6億8千2百万円(前年同期は4億6千5百万円の損失)と大幅に改善しました。

なお、医療・自動車・航空機産業分野などでのチタンをはじめとする難削材複雑形状部品の加工をターゲットとした新製品ST-38の販売を開始しました。さらに下期後半に新製品SB-20および小物精密部品用ターニングセンタの販売を予定し、CNC自動旋盤市場での販売シェアの拡大を目指します。



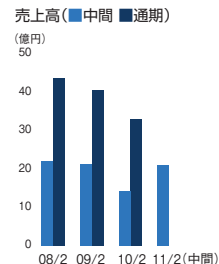
精密部品事業



腕時計部品

腕時計部品は、顧客メーカーの生産調整が終了したことから需要の回復基調が継続し、売上は大幅に増加しました。また、非時計部品では、自動車市場の回復に伴いカーオーディオ向け部品が好調に推移したほか、小型ハードディスク駆動装置(HDD)部品は後半にかけてメーカーの生産調整があったものの、売上は増加しました。

以上の結果、当事業の売上高は21億4千9百万円(前年同期比50.4%増)と大幅に増加し、営業利益は3億5千5百万円(前年同期は1億6千6百万円の損失)と大幅に改善しました。



四半期連結貸借対照表

単位：百万円

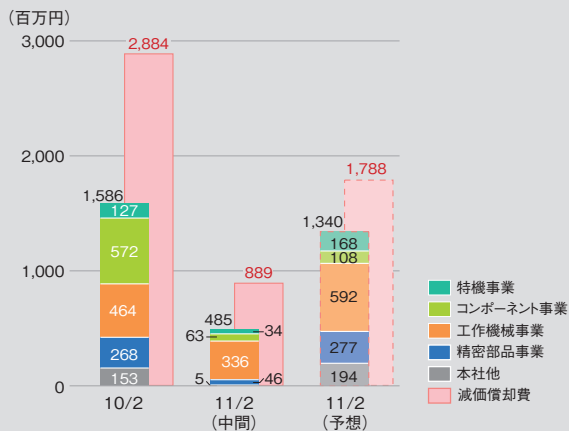
科目	当第2四半期 2010年8月31日現在	前期 2010年2月28日現在
資産の部		
流動資産	33,908	34,345
固定資産	15,237	16,335
有形固定資産	11,185	11,677
無形固定資産	259	308
投資その他の資産	3,792	4,348
資産合計	49,145	50,680
負債の部		
流動負債	10,642	8,828
固定負債	452	592
負債合計	11,095	9,420
純資産の部		
株主資本	44,592	46,149
資本金	12,721	12,721
資本剰余金	13,876	13,876
利益剰余金	25,019	26,587
自己株式	△ 7,025	△ 7,036
評価・換算差額等	△ 7,221	△ 5,539
その他有価証券評価差額金	111	61
為替換算調整勘定	△ 7,333	△ 5,600
少数株主持分	679	650
純資産合計	38,050	41,260
負債純資産合計	49,145	50,680

四半期連結損益計算書

単位：百万円

科目	当第2四半期(累計) 2010年3月1日から 2010年8月31日まで	前第2四半期(累計) 2009年3月1日から 2009年8月31日まで
売上高	16,967	13,296
売上原価	11,225	9,941
売上総利益	5,741	3,354
販売費及び一般管理費	5,352	5,358
営業利益(損失:△)	389	△ 2,003
営業外収益	136	286
営業外費用	303	266
経常利益(損失:△)	222	△ 1,984
特別利益	43	11
特別損失	1,163	403
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 897	△ 2,377
法人税、住民税及び事業税	532	196
法人税等調整額	△ 398	363
少数株主利益	51	36
四半期純損失(△)	△ 1,082	△ 2,974

● 設備投資



主な設備投資実績および予定

- ◆ 小型プリンタ新製品用の金型等
- ◆ 小型音響部品新製品用の金型等
- ◆ 工作機械新製品用の機械装置等
- ◆ 精密部品能力増強のための機械装置等
- ◆ 情報システム更新等

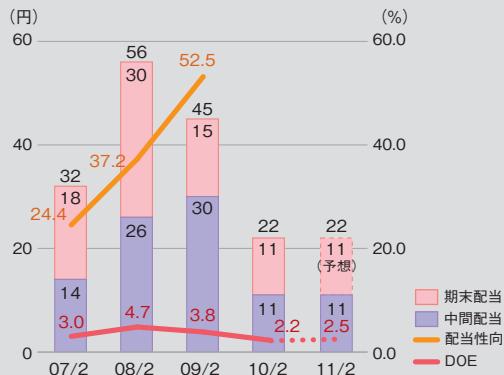
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当第2四半期(累計) 2010年3月1日から 2010年8月31日まで	前第2四半期(累計) 2009年3月1日から 2009年8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,620	1,535
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 696	△ 164
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 455	△ 677
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 977	777
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△ 509	1,471
現金及び現金同等物の期首残高	14,372	14,610
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,863	16,081

● 株主還元

1株当たり配当額／配当性向／DOE



株主還元につきましては、配当性向40%以上を目標にDOE(株主資本配当率)を勘案しながら実施していきたいと考えております。

当中間期は純損失となりましたが、DOEを考慮し、前期と同じく1株当たりの中間配当を11円とさせていただきます。また、期末配当についても、同じく1株当たり11円(中間配当とあわせて年間22円)を予定しております。

※2010年2月期および2011年2月期(予想)は当期純損失となるため、配当性向を算出しておりません。

多様化する市場ニーズにあわせ、工作機械と小型プリンタにおいて多くの新製品を続々と開発し、ラインアップの充実を図りました。

工作機械



SB-20 typeA/C/E

難削材部品加工をターゲットとしたスイス型自動旋盤

高剛性・高精度で評判の「SB-16シリーズ」に代わる新製品として開発されたスイス型自動旋盤。4軸制御のtypeA、背面主軸を搭載した5軸制御のtypeC、背面主軸と背面加工用刃物台を搭載した7軸制御のtypeEをラインアップ。自動車産業分野などでの難削材部品の加工のための需要を見込んでいます。

販売開始(予定): typeA/C 2010年11月
typeE 2011年1月

ST-38

最大加工径のスイス型自動旋盤

3タレットで多彩な複合加工が可能なスイス型自動旋盤。加工径をスイス型自動旋盤としては最大の38mmとし、制御軸数は15軸、10面タレット型刃物台を計3台搭載した大型高機能機です。太径偏芯複雑形状部品も容易に加工できます。

販売開始: 2010年6月



SF-25

ターニングセンタ市場へ新規参入

小物精密部品用のターニングセンタ。工作機械市場でのシェア拡大を目指し、当製品をもって新規にターニングセンタ市場へ参入します。

タレット型刃物台と工具主軸、工具主軸用自動工具交換装置(ATC)を有し、制御軸数は9軸の機械構成となっています。工具主軸にバックチャックユニット(特許出願中)を取り付けることにより、サブスピンドルを設けることなく背面側の加工を可能としました。当社が得意とする小物精密部品に特化して、医療・航空機・自動車部品などミリング加工を主体とする複雑形状部品をターゲットに、欧米市場を中心に販売を予定しています。

販売開始(予定): 2011年1月

小型 プリンタ

TSP100ECO

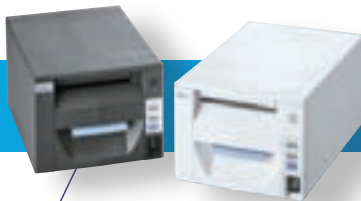
環境に配慮したサーマルエコプリンタ

国内外のPOS市場にて好評を博している「TSP100 futurePRNTシリーズ」の新たなラインアップとして発売されたサーマルエコプリンタ。業界初の環境配慮型の製品であり、様々なエコ印字機能を搭載しています。業界最高レベルの低消費電力を実現し、縦横縮小印字機能・トップマージン3mm設定・プリントオンデマンド機能等により、用紙使用量を節減し、環境に優しいだけでなくランニングコストも削減できるプリンタです。発売にあわせてカーボン・オフセット^{*}キャンペーンを実施し、CO₂の削減に貢献しています。

販売開始：2010年5月

^{*}カーボン・オフセット

市民・企業等が自らの温室効果ガスの排出量を認識し、これを削減する努力を行うとともに削減が困難な排出量を把握し、クレジットの購入や排出削減活動により、「他の場所」で直接的・間接的に埋め合わせ（相殺）すること



FVP10

業界初のヴォイスプリンタ

POS、キッチン、KIOSK端末用途の小型サーマルプリンタ。19種類の音声ライブラリと11種類のエラーメッセージを収録し、ステータスを音声でお知らせするユニークな「ヴォイス機能」を取り入れました。また、天面がフラットなためテーブル下や棚下など様々な場所への取り付けが可能で、プリンタ周りのスペースも有効活用できます。

販売開始：2010年4月

SM-S200/T300/S300/S400

クレジットカードの読み取り機能を標準装備したモバイルプリンタ

「オンデマンド決済システム」のためのモバイルプリンタ。業界トップクラスの「コンパクト性&軽量性」で、新規にモバイルプリンタ市場へ参入します。クレジットカードの読み取り機能を標準装備し、低コストでクレジットカードを利用した決済システムを構築できます。

販売開始：SM-S200/T300 2010年3月

SM-S300/S400 2010年5月

NEWS

ドイツ工作機械販売子会社の社屋新築移転

当社全額出資のドイツ工作機械販売子会社であるスターマイクロニクス・GmbH (Star Micronics GmbH)は、2010年6月16日に社屋の新築移転を行いました。

今回の新築移転は、当社工作機械の主要販売地域である欧州での客先へのサービス向上による一層の販売拡大を目的としたもので、社屋面積は従来に比べおよそ2倍となり、ショールームのほかに工作機械を客先の求める仕様に変更する作業スペースを十分に確保。また、地熱エネルギーを利用した冷暖房設備を導入して環境に配慮した社屋にしました。



スターマイクロニクス・GmbH新社屋外観



NEWS

小型プリンタの中国・東南アジアでの販売体制再編のため、スターマイクロニクス アジア・LTDを2011年12月を目処に清算することとし、代わってタイのスターマイクロニクス (タイランド) Co.,LTD内に販売拠点を新設します。

事業所

本社
品質技術センター

■特機事業部
庵原工場

■コンポーネント事業部
庵原工場

■機械事業部
菊川工場
東京営業所
大阪営業所
名古屋営業所
諏訪営業所

■精密部品事業部
富士見工場

国内子会社

(株)ミクロ札幌
(株)ミクロ富士見
スターメタル(株)

会社概要

設立	1950年7月6日
資本金	127億2千1百万円
従業員数	602名 <small>(注)契約社員等の当中間期の平均雇用人員112名を除いております。</small>
営業品目	1.特機(小型プリンタ、カードリーダー) 2.コンポーネント(電子ブザー、マイクロフォン、スピーカー、レーザー) 3.工作機械(CNC自動旋盤等工作機械) 4.精密部品(腕時計部品、通信機器用・自動車用・医療用等部品)

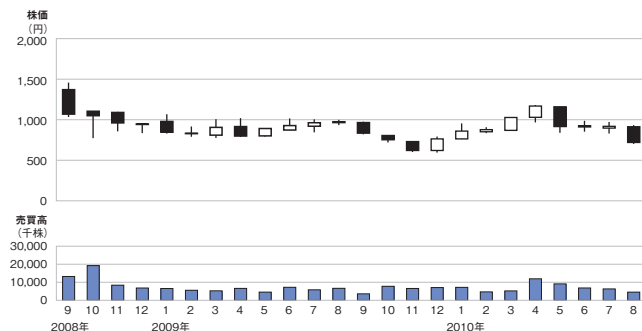
役員

代表取締役社長	佐藤 肇	監査役(常勤)	澤田 博行
常務取締役	興津 智彦	監査役	洞江 秀
常務取締役	伏見 千秋	監査役	上野健二郎
取締役	城島 里見	<small>(注)監査役3氏は、いずれも会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。</small>	
取締役	田中 博		
取締役	倉前 隆		
取締役	村上 淳一		
取締役	佐藤 衛		

株式状況

発行可能株式総数	158,000,000株
発行済株式総数	51,033,234株
株主数	11,108名

株価および株式売買高の推移(東京証券取引所)

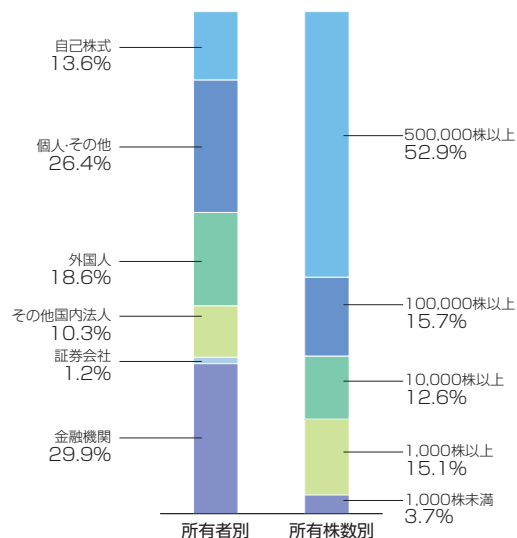


大株主(上位10名)

	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	3,422	7.8
タイヨーパールファンドエルピー	2,500	5.7
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	2,227	5.1
シチズンホールディングス(株)	2,058	4.7
株静岡銀行	1,582	3.6
INDUS JAPAN MASTER FUND, LTD	1,391	3.2
株みずほ銀行	1,348	3.1
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口9)	1,037	2.4
リズム時計工業(株)	1,006	2.3
資産管理サービス信託銀行(証券投資信託口)	936	2.1

(注1) 当社は、自己株式6,955千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
 (注2) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 (注3) 当社は、2010年9月3日から同年9月16日まで、東京証券取引所における市場買付けにより自己株式1,000千株を取得しました。この結果、当社の保有する自己株式は7,955千株となりました。

所有者別・所有株数別分布状況



事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月
剰余金の配当の基準日	期末配当 2月末日 中間配当 8月31日
定時株主総会の基準日	毎年2月末日
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 東京都千代田区大手町二丁目6番2号(日本ビル4階)
特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
郵便物送付先・連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター お問合せ先 ☎ 0120-49-7009 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店でも行っております。
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部
公告方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載URL(http://www.star-m.jp)
単元株式数	100 株

●ホームページのご案内

当社のホームページでは、会社情報、IR情報や新製品に関するお知らせなどさまざまな最新情報を掲載しております。ぜひご覧ください。

<http://www.star-m.jp>



株式に関するお手続きについて

お手続き内容	お問合せ窓口	
	証券会社に口座をお持ちの株主様	証券会社に口座をお持ちでない株主様
<ul style="list-style-type: none"> 住所・氏名等のご変更 単元未満株式の買取および買増請求 配当金の受領方法のご変更 その他株式に関するお問合せ 	口座をお持ちの証券会社	特別口座の口座管理機関 東京証券代行株式会社* 東京都千代田区大手町二丁目6番2号(日本ビル4階) 《郵便物送付先・連絡先》 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎ 0120-49-7009
<ul style="list-style-type: none"> 未受領の配当金に関するお問合せ 郵便物についてのお問合せ・再送付のご依頼 	すべての株主様 株主名簿管理人 東京証券代行株式会社* 東京都千代田区大手町二丁目6番2号(日本ビル4階) 《郵便物送付先・連絡先》 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎ 0120-49-7009	

※中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店(コンサルプラザを除く)においてもお取次しております。

スター精密株式会社

〒422-8654 静岡県静岡市駿河区中吉田20-10
TEL.054-263-1111 FAX.054-263-1057

